

平成 25 年度事業報告

公益財団法人調布ゆうあい福祉公社

目次

概要

- 1 公社を取り巻く社会環境と公社の現状・・・・・・・・・・ 2
- 2 重点事業の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

事業報告

I. 高齢者及び障害者等の生活支援に関する事業

- 1 有償在宅福祉サービス事業・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 2 生活支援コーディネート事業・・・・・・・・・・・・ 10
- 3 在宅福祉サービスに関する相談事業・・・・・・・・ 12
- 4 居宅介護支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 5 調布市地域包括支援センターゆうあい事業・・ 16
- 6 訪問介護事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- 7 デイサービスぷちぽあん事業・・・・・・・・・・・・ 29
- 8 調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業・ 31
- 9 低栄養予防事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
- 10 軽度生活援助事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
- 11 介護保険要介護認定調査事業・・・・・・・・・・・・ 37
- 12 障害者訪問介護事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

II. 市民福祉及び地域福祉の増進のための普及啓発，人材育成 並びに調査研究開発事業

- 13 普及啓発事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
- 14 人材育成事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
- 15 調査研究開発事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

III. その他の報告事項

- 16 事業運営に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
- 17 サービスの質の向上・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
- 18 役員等・会議に関する事項・・・・・・・・・・・・ 67
- 19 事業報告書付属明細書について・・・・・・・・ 70

調布ゆうあい福祉公社の「理念」

公社は、市民相互の助け合いと自立支援のための質の高いサービスの提供を通じて、あたたかい地域づくりを目指します

- 住み慣れた地域で安心して生活を続けられるようサポートします
- 利用者の尊厳を守り、その人らしい生活を支援します

概要

1 公社を取り巻く社会環境と公社の現状

団塊世代が後期高齢者となる平成37年まであと10年、社会保障制度の改革が喫緊の課題となり、国は平成27年4月施行予定の介護保険制度改正で「地域包括ケアシステムの構築」と「介護保険制度の持続可能性の確保」を目指すとしています。このうち「地域包括ケアシステムの構築」においては、これまで介護保険の予防給付の一部であった訪問介護・通所介護が、市町村が取り組む地域支援事業に移行するなど、公社が培ってきた市民相互の助け合いによる事業がますます重要となってきます。

一方、平成25年度は公社が公益財団法人に移行して2年目の年でありました。これまで公社事業の推進に当たっては、市民や地域の福祉に資するという「公共性」の観点に立ち、支え合える地域づくりと市民生活の充実を図り、住み慣れた地域で生涯安心して生活できる地域社会を創造するという公社の理念に沿って運営して参りました。

そして、今後も公社が公益法人としてその公益性を発揮していくに当たり、職員が公社の理念及びその使命について認識を深め共有化する必要があると考え、全職員に対し4回にわたり「理念・使命研修」を実施しました。この研修を通じて職員一人ひとりがそれぞれの仕事の中で、その公益性とは何かを改めて問い直す機会となり、今後の事業展開における基礎固めをすることができました。

さらに、公社では日々のサービス提供の中で収集した利用者のニーズ

や情報を分析，研究し，地域社会に必要なサービス実践を行う「循環型システムの推進」や，インフォーマルサービス（住民参加型）とフォーマルサービス（介護保険制度等）の「総合的・一体的なサービス提供」を行っています。また，公社のもつネットワークを基盤に，行政や地域の医療・保健・福祉の機関との連携を図り，介護保険事業のほか，従来の市民相互の助け合いによる住民参加型事業や，市からの受託事業も含めたシステムの構築について取り組んでいます。このようなことを踏まえ，平成 24 年度に作成した中期計画（計画期間：平成 25 年度～29 年度）に沿った事業の取組を今後も進めていきます。

2 重点事業の取組

(1) 公益財団法人として地域における福祉，介護サービスの資質向上への取組

公益財団法人として地域における福祉，介護サービスの資質向上への取組として，訪問介護係では他事業所へ介護研修の講師派遣や，公社協力会員等への講師として実践の経験をいかした内容での講義を行いました。また，平成24年度に引き続き公社の内部研修やケースカンファレンス，そして法律相談等の専門相談を公開しました。

ホームヘルパーフォローアップ研修では，実際に就労している介護職員も参加しやすい夜間帯に研修を開催し，地域の介護サービスの資質向上に努めました。

(2) 食事サービス事業の改善に向けた具体的な取組

食事サービス事業の改善に向けて，平成25年度は平成24年度に取りまとめた「食事サービス事業のあり方に関する報告書」(平成25年3月発行)並びに平成25年度～29年度を計画期間とする5ヶ年のロードマップの具体的な取組として，食事サービスパンフレット(高齢者向け)をわかりやすいものへと刷新するとともに，新たに産前産後・子育て中の方向けのパンフレットを作成しました。専門職が関わることで「必要な人が，いざという時，助けてもらえる・見守ってもらえる・相談できる」という公社の食事サービスの特徴を明確にし，民間サービスとの差別化を図り，サービスの利用拡大に努めました。

また，地域包括ケアシステムの生活支援として期待される，配食の役割と見守りの強化では，市内の配食サービス事業者に呼びかけ，見守りも含めたサービスの資質向上を目的として「調布市食事サービス連絡会」を開催しました。平成24年度は準備会として開催しましたが，平成25年度においては正式に連絡会として開催し，今後も情報交換の場として継続していくことを確認しました。

今後の事業展開において，多世代にわたる協力会員の確保が必要になることから，その第一歩として子育て中の若い世代に公社の食育活動を知っていただくための事業として，親子料理教室を開催しました。若い世代に公社の食事サービスでは，素材を大事に手作りしていること，そしてお互いさまの支え合いの活動(住民参加型サービス)であることを知っていただくことができました。今後も若い世代に対して公社事業を

PRし、協力会員の拡大を図って参ります。

専門職と協力会員との協働体制の見直しでは、実際に配達に携わる協力会員が中心となって公社の専門職の意見も反映させた配達マニュアル等、食事サービスに関するマニュアル類を改訂しました。また安全運転管理者と配達協力会員、栄養士と調理協力会員が協働することにより、安全で円滑な事業を推進することができました。

（３）高齢者の見守り体制の強化

高齢者の見守り体制の強化については、見守りの役割も期待される食事サービスにおいて、前述の「食事サービス事業のあり方に関する報告書」を基に、食事サービス事業の改善とともに見守りの強化にも取り組んでいます。具体的には、公社専門職と配達協力会員との利用者情報の共有や、緊急時の迅速・適確な対応の手順や方法などの検討を行いました。

また「調布市食事サービス連絡会」の開催により、市内の配食サービス事業者とのネットワークを構築することで、高齢者等の地域での見守り体制を強化しました。

（４）認知症の方を支える地域づくり及び家族介護者への支援の推進

認知症の方を支える地域づくり及び家族介護者への支援の推進については、「調布市認知症高齢者等を介護する家族支援マップ」の発行、「認知症の理解を深める」をテーマにした福祉講演会の開催、地域での勉強会等への講師派遣、認知症サポーター養成講座の開催、デイサービス等の家族会の実施に取り組みました。

主な取組の一つ目は家族介護者や、その支援を行っている援助者に対する情報提供として、「調布市認知症高齢者等を介護する家族支援マップ」を平成26年1月に発行しました。関係団体を通じて市民に配布し、また新聞紙上でも紹介されるなど大きな反響がありました。

二つ目に、福祉講演会では「認知症の理解を深める」と題して若年性認知症の方のデイサービスや家族介護者支援を先駆的に実践している、「NPO法人町田市つながりの開(かい)」理事長の前田隆行氏を講師に、講演会を開催しました。当日は前田氏とともに若年性認知症の当事者の方にお話をいただきました。講演会には251名の参加があり、参加した認知症の当事者からは「本当は怖かった、でもがんばっていけそう」、介護している方からは「若年性認知症に特化したデイサービスや介護者

同士の情報共有の場がない」などの声がありました。公社としても今後若年性認知症の方も含め、介護者同士が気軽に集える認知症カフェ（だれでもカフェ）の開催等を検討して参ります。

その他にも、家族介護者への支援では国領デイサービス、ぷちぽあん、地域包括支援センターの各事業の中で家族会を開催しました。

事業報告

I. 高齢者及び障害者等の生活支援に関する事業

1 有償在宅福祉サービス事業

会社が理念として掲げる、住み慣れた地域で介護が必要になっても自宅で家族や親しい方々とともに、安心して生活を送りたいという願いの実現に向けた、支え合いの地域づくりを目指し事業を推進しました。

昨今のサービス利用に至る特徴は、公的な制度では対応できないニーズへの支援や、介護保険サービスを利用するまでの短期間の支援、また、急な疾病により生活に支援が必要となった方が多いため、柔軟で即応性のあるサービスの提供が求められました。

福祉機関だけでなく、地域住民からの紹介や相談で、サービス利用につながる人も多く見られ、困り事を地域で相談・解決できる関係を構築することは、地域包括ケアシステムを推進する上で重要であることから、住民同士で支え合う地域づくりに努めました。

さらに、地域包括支援センターや他機関、民間事業者など様々な機関との連携を図ることで、会社がセーフティネットとしての役割を果たし、高齢者や障害者などが安心して地域で生活を続けられるための支援を行いました。

(1) ホームヘルプサービス

事業目的	実施内容	評価
利用会員のニーズに個別に対応することで、安心して、より豊かな生活を送ることができるよう在宅生活を支援する。また、利用会員の家族介護者の負担軽減を図る。	協力会員によるホームヘルプサービスの提供を行った。 利用者数：2,135 世帯 （月平均：177.9 世帯） 利用件数：8,695 件 （月平均：724.6 件） 利用時間：15,401 時間 （月平均：1,283.4 時間）	地域の支え合いによって、利用会員一人ひとりのニーズに個別に対応することができ、安心して、より豊かな生活を送る支援ができた。

(2) 食事サービス

事業目的	実施内容	評価
<p>食事の確保をはじめ、低栄養の改善、介護者の負担軽減、食育の視点を持った支援を行うことにより生活の質の向上を図る。配達時の声かけや見守りを行うことにより、孤立を防止し、住み慣れた地域の中で、安心して生活を送ることができるよう支援する。</p>	<p>食事サービスパンフレット（高齢者向け）をわかりやすいものへと刷新するとともに、新たに産前産後・子育て中の方向けのパンフレットを作成し、健康推進課や子ども家庭支援センターすこやかを通じて配布した。</p> <p>地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等を対象に行った試食会を通して、専門職が関わることで「必要な人が、いざという時、助けてもらえる・見守ってもらえる・相談できる」という公社の特徴を明確にし、民間サービスと差別化することで、利用拡大に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宅配を実施し、栄養バランスを考えた手作りの食事を届けるとともに、見守り・様子確認を行った。 <p>利用者数：1,859人 （月平均：154.9人） 利用食数：35,441食 （月平均：2,953.4食）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内福祉機関等で必要とする食事の支援を行った。 <p>食事の配達と協力会員派遣による調理支援を行った。</p> <p>①宅配方式 1ヶ所 入間町地域密着型認知症デイサービスぶちぼあん</p> <p>②宅配、ホームヘルプ併用方式 1ヶ所 子ども家庭支援センターすこやか</p> <p>③ホームヘルプ方式 4ヶ所</p>	<p>低栄養の改善や利用者・その介護者等の負担を軽減し、自立に向けた支援を行うことができた。</p> <p>また、様子の確認、見守りを行うことにより、利用者の生活の安心・安全につながることもできた。実際に、見守りがきっかけとなり、「母さん助けて詐欺（振り込め詐欺）」を未然に防止することができた。</p>

	すてっぷ、フレンズ、じゃんぷ（以上、知的障害者グループホーム）、こぶしの花深大寺（認知症高齢者グループホーム） ④レストラン方式 1ヶ所 調布市国領高齢者在宅サービスセンター 食事サービスの総食数（年間） 49,655食（平成24年度） 49,284食）	
--	--	--

（3）会員交流事業

事業目的	実施内容	評価
住民同士の支え合いを意識し、会員が健康でいきいきと生活できるよう生きがいの創出を図る。	平成26年2月9日（日）に演奏会及び懇談会を予定していたが、大雪の予報のため、参加者の安全を考慮し前日に中止を決定した。	大雪で中止としたが、次年度以降は、安定した事業運営を行うため、開催時期を検討する。

（4）会員慶弔

事業目的	実施内容	評価
独居や家族と疎遠な高齢者等へコミュニケーションの機会を創出し、安心して日常生活を過ごすことができるよう支援する。	会員の慶事（利用会員の誕生日）には、訪問してミニブーケを届けた。逝去に際しては弔電により弔意を表した。 誕生日の記念品贈呈：262人 （月平均22人） 弔電：1人（利用会員1人）	コミュニケーションの機会の創出とともに、会員に対する慶弔の意を表すことができた。

2 生活支援コーディネート事業

生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」は市民（登録ボランティア）の参加と協力を得ながら生活支援サービスを実施し、地域包括ケアシステムを推進しています。ちょっとした「手助け」で自立した生活を送ることができるサービスとして、高齢者等に利用されています。

平成25年度は、更に多くの方に「ちょこっとさん」を知っていただけるように、市内で実施されているふれあい給食の会場、高齢者会食などへ出張説明を行い、広報を強化しました。

また、これまで公社が蓄積してきた事業のノウハウを、野ヶ谷の郷「ご近所支え合い隊」等に提供し、小地域の活動をサポートするとともに連携を深めました。こうした取り組みにより、地域包括支援センターや社会福祉協議会等を経由する相談も増え、市内相談機関と連携しながら支援を行うことができました。

(1) 生活支援事業「ちょこっとさん」

ア 生活支援事業「ちょこっとさん」

事業目的	実施内容	評価
高齢者の在宅生活を維持することができるように、「ちょっとした」困りごとの相談と必要なサービスの提供または紹介を行う。	30分程度でできる「ちょっとした」お手伝いを行った。また、地域の各種サービスを紹介した。 相談件数：218件 利用件数：156件 新規相談件数：67件 登録ボランティア数(平成25年度末現在) 85人	身の回りのちょっとした生活支援を行うことで、一人暮らしの高齢者等の在宅生活の維持につながった。

イ 登録ボランティア説明会と研修会

事業目的	実施内容	評価
地域で事業の広報を行い、サービスを担う市民（登録ボランティア）を募集する。また、登録ボランティアが安心してサービスに携わることが	・登録ボランティア説明会（協力会員登録説明会と合同） 全8回 ①6月14日（金） ②7月8日（月） ③10月4日（金） ④11月14日（木） ⑤1月16日（木）	介護予防、地域福祉の担い手の育成、地域福祉ネットワークの育成を行うことができた。

<p>できるよう交流を図りながら、サービスに関わる情報交換や実習体験を行う。</p>	<p>⑥1月28日（火） ⑦2月18日（火） ⑧3月13日（木）</p> <p>・登録ボランティア研修</p> <p>①「暮らしと個人情報」 6月18日（火） 講師：村井祐一氏（田園調布学園大学教授） 参加者：59人（公開研修，協力会員研修と合同）</p> <p>②「ストレスマネジメント」 12月13日（金） 講師：松島直子氏（株式会社アンサー／保健師） 参加者：17人 （公開研修，協力会員研修と合同）</p> <p>③「接遇研修」 2月14日（金） 講師：三島理枝氏（人材育成コンサルタント） 参加者：12人 （協力会員研修と合同）</p>	
--	--	--

3 在宅福祉サービスに関する相談事業

高齢者、障害者、病弱者及びひとり親家庭等の総合相談の窓口として、公社が展開している地域包括支援センターや多種の介護保険事業によって蓄積した情報やノウハウを活用し、日常生活や健康に関する相談に応じました。また、地域の機関と連携しながら、公社の持っている情報やネットワークを駆使し、最適な支援につなげるなど、問題解決に向けて対応しました。24時間365日対応することで、市民の誰もが、いつでも相談ができる安心や、信頼感を築くことができました。

医師及び弁護士による専門相談については、地域における福祉、介護サービス人材の資質向上への取組を進めるため、公社と関わりのある市内関係機関等の法人に公開し、実施しました。

(1) 在宅福祉サービスに関する生活相談

事業名	事業目的	実施内容	評価
生活相談 (市民)	地域で暮らす高齢者等が身近な窓口で相談ができ、安心して暮らすために、生活支援の視点に立って高齢者等の生活相談に応じ、関係機関と連携を図りながらホームヘルプサービス等の在宅福祉サービス情報を提供する。	住民参加推進係・居宅介護支援係・地域包括支援センター系のソーシャルワーカー・看護師が電話、来所、訪問等による相談を行った。 電話相談：9,478件 来所相談：1,015件 訪問相談：5,522件 その他：1,255件 年間合計：17,270件	市民の身近な相談窓口として、関係機関と連携を図りながら、介護や健康等の相談に応じることで、住み慣れた地域で安心した在宅生活を送るサポートができた。また、必要に応じホームヘルプ等の在宅福祉サービス情報を提供した。
生活相談 (会員)	日常生活相談や利用者一人ひとりのニーズにあったサービス調整を		

	行う。住み慣れた地域で安心して在宅生活を送れるよう支援する。		
健康訪問相談 (会員)	心身の健康に関する相談や必要な指導, 助言を行うことにより, 家庭における健康管理や健康の増進を図ることができるよう支援する。		

(2) 医師による健康相談

事業目的	実施内容	評価
心や体の悩みについて, 専門医に相談する機会を提供する。	<p>公社相談医による個別相談 対象：市民, 利用会員, 協力会員, 市内関係機関 相談日：隔月に各 1 日</p> <p>①内科相談：7件 かかりつけ医・家庭医の探し方や生活習慣病についてなどの健康上の相談を受けた。</p> <p>②神経科相談：9件 心の悩みや精神的な病について相談を受けた。</p>	<p>専門医による個別相談の場を提供することにより, 市民の精神的, 身体的不安を軽減できた。公開後, 福祉関係機関からの, 相談実績にはつながらなかったため, 今後, 広報や周知等の方法を検討する。</p>

(3) 弁護士による法律相談

事業目的	実施内容	評価
<p>市民生活の中で発生する法律的な悩みを専門家に相談する機会を提供する。</p>	<p>公社顧問弁護士による相談を行った。身近な生活の問題から財産・遺産相談など法律上の相談を受けた。9件 対象：市民，利用会員，協力会員，市内関係機関 相談日：隔月に1日</p>	<p>法律的な悩みを専門家に相談する機会を提供することにより，安心して在宅生活を送るための支援ができた。公開後，福祉関係機関からの，相談実績にはつながらなかったため，今後，広報や周知等の方法を検討する。</p>

(4) 福祉用具等の相談，貸出，紹介

事業目的	実施内容	評価
<p>入院中の一時外出，外泊などの場合に，購入することなく福祉用具を利用することや，在宅で自立した生活を送るために適した福祉用具を選ぶことができるよう支援する。</p>	<p>相談を受け，福祉用具・介護用品等の紹介，貸出，業者の紹介をした。 貸出件数：166件</p>	<p>高齢者等や家族が，介護に必要な福祉用具や介護用品を安心して利用できるよう支援ができた。</p>

4 居宅介護支援事業

介護保険法を遵守しながら、利用者の望む暮らしが実現できるように、アセスメントを適切に行い、介護保険サービスのみならず、地域の社会資源を取り入れたケアマネジメントを行いました。多くの課題（認知症、精神疾患、経済環境など）を抱えた利用者に対しては、行政や他機関、利用者を支える地域の方々等と連携を取りながら対応し、支援しました。

特に平成 25 年度は、初夏からの猛暑、冬の寒さや大雪等厳しい気象の影響で体調を崩す利用者が多く、緊急の受診や入院対応など適切な支援をしました。

また、介護支援専門員調布連絡協議会の役員として運営を担い、地域のケアマネージャーの研修企画等に関わることで、地域の福祉人材の資質向上の支援に努めました。

(1) 居宅介護支援，居宅介護予防支援事業

事業目的	実施内容	評価
介護保険サービス等を活用し、利用者の意欲、可能性が最大限に引き出され、その人らしさを大切に、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる生活を実現するための支援を行う。	アセスメントに基づき、介護保険サービスのみならず、個々の利用者にとって必要かつ効果が期待できるサービスも視野に入れ、ケアプランを作成した。介護予防給付の利用者に対しては意欲や可能性を引き出せるようにともに考えながら支援した。また、定期的に利用者状況を確認し、合理的・効果的にサービス提供ができていることについて、評価した。 介護保険ケアプラン作成及び給付管理件数：1,385 件（平成 24 年度 1,447 件） 介護予防ケアプラン作成及び給付管理件数：148 件（平成 24 年度 149 件）	認知症や家族関係など複雑な問題を抱えた利用者を含め、定期的な観察と他機関との連携を図りながら、利用者が安心して生活を送ることができるように支援することができた。

5 調布市地域包括支援センターゆうあい事業

市内最多の高齢者人口を有する地区を担当しており、地域のセーフティネットとして、また、地域包括ケアを支える拠点として、高齢者や障害を持つ人が地域で安心して暮らせるよう努めました。

地域ケア会議は、「生活を支える資源を考える」をテーマとして開催しました。地域の関係団体の方々と共に、10年後に予測される社会状況について学び、地域包括ケアシステムの構築に向け、必要な地域資源について話し合い、理解を深めました。

地域包括支援センターゆうあいの周知度向上のため、出張説明会の企画、提案、開催を行いました。また、見守りネットワーク事業担当を中心に、地域の行事へ積極的に参加し、PRを行ってきました。

(1) 地域包括支援センター事業

ア 総合相談事業

事業名	事業目的	実施内容	評価
総合相談事業	地域の高齢者の相談にニーズに合った内容を具体的に助言し、家族の介護負担を軽減する。地域の高齢者等が困ったときに気軽に相談ができ、安心して住み慣れた地域で暮らせるよう支援を行う。	訪問、電話、来所による面接を通じた総合的な相談に基づき、生活の実態やニーズの把握を行い、医療・保健・福祉などの必要なサービスや関係機関への紹介等を行った。 対象：高齢者、家族等 実態把握人数：1,037人 相談件数：7,730件	必要に応じた適切なサービスの紹介等を行うことで、高齢者やその家族等が安心して在宅生活を継続することができた。
判定・申請代行	高齢者が調布市の必要な高齢福祉サービス等を選択し利用することができるよう身近な窓口として、高齢者の	来所、訪問による面接を通じて各種判定業務・介護保険申請代行等を行った。 判定件数：364件	高齢者やその家族等が在宅生活を継続する上で必要な福祉サービスに適切につながるよう支援することができ

	自立に向けた適切な情報を提供し、必要な手続きを行う。		た。
--	----------------------------	--	----

イ 地域ネットワーク

事業名	事業目的	実施内容	評価
地域ケア会議	高齢者等が安心して生活できる地域づくりを行う。	<p>地域包括ケアシステムの構築を目指して「生活を支える資源について考える」をテーマに住み慣れた地域が今後どのように変化するか、その上で「生活上不安を感じることでどんなこと」、「現状の相談窓口の活用法」について2回に渡り話し合った。それを踏まえて第3回に地域づくりのためにできる事を地域で実践している団体からの発表を交えて話し合いの場を持った。</p> <p>①7月10日（水） 対象：民生児童委員，広報協力員，地域団体（自治会，老人クラブ，地区協議会関係者，サービス事業所等） 出席者：18人</p> <p>②10月23日（水） 対象：民生児童委員，広報協力員，地域団体（自治会，老人クラブ，サービス事業所等） 出席者：17人</p> <p>③3月12日（水） 対象：民生児童委員，広報協力員，地域団体（自治会，老</p>	<p>参加者より，意見交換の場として有意義であったとの感想が毎回あった。</p> <p>この意見交換を通じ，地域で行っている活動の場，相談窓口や介護保険サービス，介護保険外のサービスなどについての知識を地域住民や関係団体と共有し，理解を深めることができた。</p> <p>今後は，参加対象者の拡大のための工夫が必要である。</p>

		人クラブ、サービス事業所等) 出席者：21人	
広報協力員 研修、連絡 調整会	市民の立場で 地域包括支援 センターと地 域をつなぐ役 割を持つ広報 協力員と、定期 的な連絡会・研 修を実施する ことにより、市 民への広報と 啓発に努める。	研修、連絡調整会を開催した。 4月24日(水) 委嘱式* (*は調布市全体) 5月8日(水) 新年度挨拶・今年度の計画に ついて 5月22日(水)、6月11日(火) 民生児童委員と広報協力員 の連絡会 7月29日(月) 地域密着型介護老人福祉施 設入所者生活介護「神代の 杜」見学 9月17日(火) 前期振り返り・研修先のマッ プへの落とし込み作業 10月1日(火) PR訪問の準備 1月14日(火) PR訪問まとめ 2月25日(火) 全体研修* 3月5日(水) 振り返り	民生児童委員と の顔合わせが、 互いの業務につ いて理解を深め る機会となり、 広報協力員のス ムーズな活動に つながった。ま た平成25年度 までの研修先を マップに落とし 込むことで、地 域資源の役割等 の再確認を行っ た。その結果、 地域資源や制度 への知識がより 深まり、広報協 力員が各々の広 報と啓発活動に いかすことがで きた。
広報協力員 PR訪問	広報協力員が 市民の立場で 支援センター と地域をつな ぐ広報訪問を 継続して行う。	市民の視点で、支援センターや 市の各種施策、介護予防事業等 の紹介、みまもっとのPRを行 った。 ・新規訪問 1回 対象：70歳以上の世帯で、高 齢者の総合相談窓口の案内を 希望した世帯	支援センターの 普及・啓発がで きた。また、具 体的な相談やサ ービスが必要と 思われる方を支 援センターにつ なぎ、介護保険

		<p>訪問数：3世帯 6人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続訪問 1回 <p>対象：平成24年度対象者のうち継続希望者</p> <p>訪問調査者数：21人</p>	<p>の申請等に結びつけることができた。</p>
<p>民生児童委員と広報協力員の連絡会</p>	<p>連携をとることで、安心して暮らせる地域づくりを推進する。</p>	<p>担当地域の民生児童委員と広報協力員、地域包括支援センターが連携をとれる関係性づくりを行う。</p> <p>対象：地域包括支援センターゆうあい担当地区の民生児童委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2地区 5月22日（水） 出席者：14人 ・第4地区 6月11日（火） 出席者：15人 	<p>民生児童委員と広報協力員との相互の役割を確認し、顔の見える関係を作ることができた。</p>
<p>認知症サポーター養成講座の開催</p>	<p>市民が認知症の疾患や当事者、家族介護者の気持ちを理解することで、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを推進する。</p>	<p>認知症の理解や家族介護者の支援に向けて、普及啓発活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座開催 1回 <p>①5月23日（木） 対象：「ひだまり菊野台」メンバー 20人 (至誠しばさきと共催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座への講師派遣 2回 <p>①1月17日（金） 参加者：八千代銀行調布支店行員 18人</p> <p>②1月29日（水） 参加者：シルバーピアワーカー連絡会 5人</p>	<p>身近な関係機関や地域で定期的に行っているひだまりサロンに普及啓発することが出来た。ひだまりサロンでの開催は少人数で会ったことから、身近な課題を質疑応答をまじえて確認し、知識を深めてもらうことができた。</p>

ウ 介護支援

事業名	事業目的	実施内容	評価
介護教室	安心してサービスを利用し、介護に携わることができるよう支援を行う。	<p>医療・保健・福祉等に関する普及啓発を行った。「安心して暮らすための介護保険の活用法」をテーマに教室を2回開催、介護保険制度や介護保険の活用法に関する情報を届けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お出掛けが楽しくなる身体に合った用具の選び方」 <p>9月6日（金） 講師：藤原成子氏（医学博士） 参加者：30人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知らないと損する介護保険～親と自分がいきいきと暮らすために～」 <p>9月13日（金） 講師：福澤陽子氏（高齢者支援室介護給付係長）、長谷川新吾氏（高齢者支援室介護保険料係長） 参加者：24人</p>	<p>介護保険をテーマとした講演会や寸劇を通し、参加者へ介護保険の活用法の情報を伝えることができた。</p> <p>質疑応答をしたことで、参加者の知りたい情報をより詳しく提供することができた。</p>
家族会	虐待防止や家族の介護負担軽減を図ることで、家族が安心して介護に携わることができるよう介護者同士の支え合い活動を支援する。	<p>介護者の集いを実施。テーマを決めて情報交換や意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族会「介護を担うご家族のつどい・あじさいの会」開催 <p>全5回 参加者：延べ35人</p> <p>5月9日（木） 老いのすみか・高齢者住宅事情</p> <p>7月11日（木） 成年後見制度</p> <p>11月14日（木） エンディングノート</p>	<p>介護者同士だからこそできる支え合いの場を提供したことで精神面の支援ができた。</p> <p>今後は現在介護を担っている人達に向けて、参加を促すPRをしていく必要がある。</p>

		1月16日(木) 訪問看護の活用・役割 3月13日(木) 今年度を振り返って 会報誌の発行：1回	
福祉用具の 展示	福祉用具を実 際に確認と体 験をすること で、適切な用具 の利用方法を 伝え、自立した 生活の支援を 行う。	福祉用具を常時展示し、相談を 受けた。入退院等で緊急に福祉 用具の利用が必要な方を貸出 (14p)につないだ。	適切な用具等の 選択と利用方法 の相談に応じる ことで、高齢者 等の自立した生 活を支援するこ とができた。

工 権利擁護

事業目的	実施内容	評価
地域において尊厳のある 生活を維持し、安心して 生活できるよう、専門 的・継続的な視点から支 援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待予防相談 相談件数：280件 ・成年後見制度の活用推進、 消費被害の防止等に関する 相談 相談件数：224件 	<p>高齢者が尊厳をもって、 地域で安心して在宅生 活を継続できるように 専門的な視点から支援 できた。</p> <p>今後も成年後見制度の 活用や関係機関への虐 待対応の必要性につい て周知を継続していく 必要がある。</p>

オ ケアマネジメント支援

事業名	事業目的	実施内容	評価
ケアプラン 適正化事業	介護支援専門 員が適切なケ アプランを作 成できるよう 支援する。	<p>地域における個々のケアマネ ジャーを支援するため、関係機 関との連絡調整や指導・助言を 行った。</p> <p>対象：担当地域の利用者を支援 している居宅介護支援専門員</p>	<p>困難な課題を抱 える利用者の課 題解決につなが った。</p> <p>今後、個々のケ アマネジャーの</p>

		支援件数：266件	更なる資質向上に向けた支援の必要がある。
地域連絡会 ケアマネッ トの開催	地域の専門職の連携・協働体制により、利用者が安心して暮らせる地域づくりの推進を図る。	「中央南地区・介護支援専門員地域連絡会ケアマネット」（ときわぎ国領・調布八雲苑・ゆうあい合同）を開催。 ・8月28日（水） 他機関との連携～在宅訪問診療編～ 参加者：19事業所73人 ・2月13日（木） 他機関との連携～医療（口腔ケア）編～ 参加者：19事業所24人	ケアマネジャーと他機関が交流を進め、社会資源の理解を深める場の提供ができた。 専門職間での連携をより深めることができる仕組みづくりを検討していく必要がある。

カ 介護予防ケアマネジメント

事業名	事業目的	実施内容	評価
介護予防ケアプランの作成及び適正化事業	高齢者が要介護状態になることを予防し、安心して在宅生活が継続できるように支援を行う。	・介護予防ケアプランの作成 対象者：要支援1・要支援2 地域包括支援センターゆうあい作成件数：1,597件 ・居宅介護支援事業所へ委託した介護予防ケアプランの管理及び指導 件数：897件	適切な目標設定により、高齢者が要介護状態になることを予防することができた。
介護予防事業	要支援・要介護になることを予防し、身体状況を維持しながら、安心して在宅生活を継続できるよう、専門的・予防的視点から支援	・電話相談、来所・訪問の面接等の相談を通して、介護予防高齢者の実態把握と介護予防についての普及啓発及び介護予防事業の紹介を行った。 対象者：294人 実態把握人数：61人 相談件数：157件 ・介護予防高齢者・虚弱高齢者	高齢者が要支援、要介護状態になることを防ぎ、いつまでもいきいきと生活できるよう支援することができた。

	を行う。	<p>が各種介護予防事業に参加するにあたって必要な判定業務を行った。</p> <p>地域支援事業判定者数 転倒予防事業：8人 運動機能向上事業：7人 口腔機能向上事業：4人 介護予防デイサービス：2人 低栄養予防事業：2人 訪問指導：0人</p>	
--	------	---	--

キ 会議・研修等への出席

会議等名称	実施内容	出席者	評価
支援センター連絡会	調布市関係者と10ヶ所の支援センターの情報共有を図り、市民への情報発信を行う。 月1回	包括職員	調布市や関係機関、各支援センターとの連携を図り、利用者へ新しい情報等を伝え、適切なサービスを紹介、提供できた。
語ろう会	10ヶ所の支援センター間で、事業に関わることや地域の課題等を共に話し合う場を持った。 年4回	包括職員	各支援センターと共通理解を図ることで、支援センターの運営を適切に行なうことができた。
介護予防検討会	調布市高齢者支援室支援センター係と10ヶ所の支援センターの保健師又は経験のある看護師が、介護予防についての情報共有や事例検討を行った。 年6回	包括の保健師・看護師	介護予防事業を適切かつ効果的に進めることができた。

権利擁護連絡会	調布市高齢者支援室支援センター係と10ヶ所の支援センターの社会福祉士が、成年後見制度や権利擁護事業について情報共有を図り、制度について理解を深めた。自主会においては事業所向けの虐待研修も3回行った。 年18回（自主会12回を含む）	包括の社会福祉士	相談業務の中で、高齢者等に対し権利擁護制度の周知と支援を行うことができた。
ケアプラン適正化会議	調布市高齢者支援室支援センター係と調布市内の主任介護支援専門員が介護保険の適正なケアプラン作成について学び、介護支援専門員に対し支援を行った。 年5回	包括の主任介護支援専門員	調布市内の主任介護支援専門員と情報共有を行い、適切なケアプラン作成に向けて介護支援専門員への支援ができた。
見守りネットワーク連絡会	調布市高齢者支援室支援センター係と10ヶ所の支援センターの見守りネットワーク事業担当者が、情報共有と広報活動の方法を学んだ。 月1回	包括の見守りネットワーク担当者	見守りネットワーク事業推進することができた。
地域密着型サービス運営推進会議	担当地域にある地域密着型サービス事業者が、地域に開かれた施設としてサービスの質の確保を図るため、事業所の会議に出席し支援を行った。 ・小規模多機能ケアハウス絆 年5回 ・複合型サービスケアホーム希望 年3回（平成25年10月開設）	包括職員	事業者の適切な運営に対して支援協力することにより、住み慣れた地域で安心して生活が継続できる地域づくりの推進を支援することができた。

(2) 見守りネットワーク事業
ア 見守りネットワーク事業

事業目的	実施内容	評価
<p>高齢者の意思や生活様式を尊重しながら地域住民による「ソフトな見守り」と「ゆるやかな働きかけ」を行い、ひとり暮らし高齢者等が地域で安心して暮らせることを目指す。また、地域包括支援センターの機能や役割の周知に努め、地域での見守りの輪を広げる。</p>	<p>市民が、高齢者の異変や要援護者を発見し、地域包括支援センターに通報することで、その後の支援につなげるというシステム。</p> <p>地域での事業協力者の拡大のため、地域団体への説明会・地域住民への広報を行った。また、広報誌「ほっとらいん」やホームページ、包括独自の「みまもっとだより」を発行し、地域団体等を通じて配布することで地域住民への周知を図った。</p> <p>PR 件数：143 件 通報件数：55 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張説明会 3 回 ①「マンション国領自治会」 6月22日(土) 参加者：12 人 ②「新生クラブ」 9月20日(金) 参加者：17 人 ③「老人クラブ・柴崎長寿クラブ」 10月21日(月) 参加者：25 人 ・地域イベントでの啓発 9 回 ①「調布市防災教育の日」国領小 4月27日(土) ②「菊野台ボランティアまつり」 5月26日(日) ③「国領小学校地区防災訓練」 9月8日(日) ④みまもっと関係団体ネットワーク会議 11月12日(火) ⑤「国領わいわいまつり」 11月17日(日) 	<p>「みまもっとだより」の発行や地域に出向いての PR 活動により、地域の方々と顔の見える関係づくりをすすめ、心配な人等の通報、市の施策・事業及び介護保険への申請につなげることができた。また、支援センターの認知度を上げることができた。</p>

	<p>⑥「調和小学校防災訓練」 11月17日(日)</p> <p>⑦「菊野台地域のつどい」 11月23日(祝・土)</p> <p>⑧「福祉まつり」 12月7日(土)</p> <p>⑨「ひだまりサロン交流会」 2月18日(火)</p>	
--	--	--

6 訪問介護事業

利用者が安心して地域で在宅生活を継続できるよう、自立支援をめざし、チームケア方式による質の高い訪問介護と介護予防訪問介護サービスの提供に努めました。また、様々な課題を抱える利用者を、介護支援専門員や地域包括支援センター等の支援関係者と連携してサービス提供を行いました。

平成 24 年度に比べ 4 月以降に頻繁に援助に入っていた利用者の入院や入所によるサービス中止が相次ぎ、10 月まで大幅な利用時間の減少が続きました。また、1 回あたりの訪問時間の平均は、約 56 分となり、平成 24 年度よりも約 13 分短くなりました。特に、サービスの中止が 6 月に集中し、その分の新規受入を進めましたが、訪問時間は年間で約 1,619 時間減少しました。

(1) 訪問介護事業、介護予防訪問介護事業

事業名	事業目的	実施内容	評価
訪問介護事業	利用者の希望、ニーズに沿って適切なサービスを提供することにより、利用者が安心して在宅生活を送ることができるよう支援する。	介護保険利用者に「利用者主体」「自立支援」を基本に、介護計画に沿ったサービスを提供した。 対象者：介護保険要介護及び要支援認定者 訪問介護と介護予防訪問介護 合計利用者数：1,672 人（平成 24 年度 1,740 人） サービス提供回数：19,426 回（平成 24 年度 17,189 回） サービス提供時間：18,071 時間 5 分（平成 24 年度 19,690 時間 45 分）	利用者が安心して在宅生活を送る支援ができた。
介護予防訪問介護事業	利用者の生活意欲が高まるように協働でサービスを提供することで、日常生活に支		利用者の生活意欲が高まり、日常生活に支障がある状態の軽減や悪化防止ができた。

	障がある状態 の軽減や悪化 防止を図る。		
--	----------------------------	--	--

7 デイサービスぷちぽあん事業

継続して利用している利用者の高齢化に伴い認知症状が重度化し、在宅が困難になったことから、施設入所や入院する方が多い年となりました。延べ利用者数は2,572人、利用率は83.7%、平成24年度と比べ一日の平均利用者は0.8人の減少となりました。

少しでも長く在宅で暮らし続けることができるように、重度化に対応したきめ細かな個別ケアを実践し、利用者と家族が安心できるサービスを提供しました。あわせて、関係機関と連携を図り、多くの課題を抱える利用者を積極的に受け入れ、地域のセーフティネットとしての役割を果たしました。

また、静養を必要とする利用者が増加していることに対応するため、ベッドを1台から2台に増やせるように和室をフローリングに改修し、より安心安全な事業実施への取組を行いました。

また、地域開放支援事業では、ひだまりサロンや自治会への施設貸出に加え、地域交流会が行われ、運営協議会と地域住民、公社職員との交流を深めることができました。

(1) デイサービスぷちぽあん事業

事業名	事業目的	実施内容	評価
認知症対応型通所介護	個別ケアを大切にしながら、認知症になっても住み慣れた地域で、その人らしい生活が送れるように支援をする。また、在宅での入浴が難しい方に身体状況に合わせた介助浴を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症対応型通所介護 対象者：要介護者・要支援者 定員：12人/日 実施曜日：月曜日から金曜日 実施日：256日 利用者数：延べ2,572人（平成24年度延べ2,760人） ・入浴サービス（個別入浴） 定員：6人/日 実施日：256日 利用者数：延べ1,195人（平成24年度延べ1,060人） 	その人に合ったきめ細かな個別支援を行うことで、安定的な通所と適切なサービスを提供することができた。身体の清潔を保つと同時に身体状況の変化を継続して観察し、サービスにつなぐことができた。

家族会	利用者を支えている家族を支援する。	家族介護者の懇談会を実施し、介護者同士の情報交換と、介護技術の学習をした。 11月16日(土) 参加者：3人	介護する家族が地域から孤立することを防ぎ介護負担を軽減することができた。
-----	-------------------	--	--------------------------------------

(2) 地域開放支援事業

事業目的	実施内容	評価
誰もが安心して健やかな生活を送るための地域づくりを目指し、住民参加型サービスの実施と認知症デイサービスの運営を支援するぷちぼあん運営協議会を中心に、地域住民に開かれた施設づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアによる、ウエルカムドリンクやおやつの配膳準備、音楽療法、ドッグセラピー、庭の手入れなど 活動者数：延べ531人 ・会食会(ぷちぼあんひだまりサロン)実施を支援した。 実施回数：10回 参加者：延べ138人 	<p>地域住民がデイサービスへのサポートを行うことができた。</p> <p>また、住民自身が地域づくりの活動に、企画・実施・参加することができた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流会実施を支援した。 第1回：絵手紙教室と茶話会 6月29日(土) 参加者：17人 第2回：台風のため中止 第3回：音楽療法体験 3月29日(土) 参加者：21人 	<p>認知症の人が安心して生活を送るための地域づくりを支援することができた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の無料貸出の実施 ①会食会：10回延べ138人(再掲) ②地域交流会：2回延べ38人(再掲) ③近隣の自治会：8回延べ46人 	<p>住民の地域づくりを支援することができた。</p>

8 調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業

通所介護事業では、平成25年度の実施日数は293日でサービス利用延べ人数は9,071人、利用率は73.7%でした。一日の平均利用人数としては30.95人で平成24年度に比べ0.22人の増加となりました。主な要因としては、中止となる利用者が減少したこと、並びに12月以降、通所介護で介護度の高い方が定期的に利用できたことによるものです。

サービス提供については、年間を通して転倒予防体操や趣味活動を中心に、季節ごとに行事を取り入れながら実施しました。

利用者の個別状況を職員間で共有してサービス提供するとともに、定期的に通所介護計画の見直しを行い、関係機関と連携を図りながら、課題を抱える利用者を積極的に受け入れ地域のセーフティネットとしての役割を果たしました。

平成26年2月の近年にない大雪では、送迎車が運行不能となり、デイサービス事業を休止しました。この休止に当たっては、利用者等に連絡を取り、健康状態や食事が確保できるかなど在宅生活に支障のないことを確認しました。

介護予防デイサービスについては、長期間、定期的に利用することで、心身の状態の向上や維持につながりました。

地域福祉交流育成では、個人ボランティア・団体共に昨年を上回る結果となり、交流会への参加人数も増加しました。また、中学生の職場体験を受け入れ、中学生が福祉の現場を実際に体験することで生徒の成長に貢献することができました。

家族介護者支援として家族会を開催し、介護から離れて家族同士が集い、職員を交え意見交換することで、家族介護に対する新たな視点や発見があり、介護者の負担を軽減することにつながりました。

(1) 調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業

事業名	事業目的	実施内容	評価
調布市国領 高齢者在宅 サービスセ ンター事業	住み慣れた地 域で安心して 生活を続けら れるよう、利用 者の尊厳を守 りその人らし	通所介護計画に基づき、送迎・ 食事・転倒予防体操・入浴・趣 味・生きがい活動等のサービス を提供した。 対象者：要介護者・要支援者 実施曜日：月曜日から土曜日	生活の質の向 上、生きがいづ くり、心身の健 康維持への支援 ができた。 また、入浴サー

	<p>い生活を支援する。</p> <p>また、プライバシーを守り、身体状況に合わせた介助浴とリフト浴を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通所介護・介護予防通所介護 定員：30人／日 実施日：293日 利用者数：延べ6,459人（平成24年度延べ6,380人） ・認知症対応型通所介護，介護予防認知症対応型通所介護 定員：12人／日 実施日：293日 利用者数：延べ2,612人（平成24年度延べ2,630人） ・措置通所 実施日：10日 利用者数：延べ10人 ・入浴サービス（個別入浴） 定員：10人／日 実施日：293日 利用者数：延べ2,615人（平成24年度延べ2,402人） 	<p>ビスでは，身体の清潔を保つと同時に身体状況の変化を継続して観察し，必要なサービスにつなぐことができた。</p>
--	--	---	--

（２）介護予防デイサービス事業

事業目的	実施内容	評価
<p>ひきこもり防止，健康の維持増進を図ることができるよう支援する。</p>	<p>趣味活動・レクリエーション・転倒予防体操等のサービスを提供した。</p> <p>対象者：介護予防高齢者等，調布市が必要と認められた方</p> <p>実施曜日：火曜・水曜・金曜</p> <p>定員：15人／日</p> <p>実施日：143日</p> <p>利用者数：延べ424人</p>	<p>ひきこもり防止，健康維持増進と介護予防の支援ができた。</p>

（３）地域福祉交流育成

事業名	事業目的	実施内容	評価
<p>ボランティアの受け入</p>	<p>利用者との交流により地域</p>	<p>個人・団体・学校・保育園がボランティアとして「生活」「季</p>	<p>地域住民は福祉への理解を深め</p>

れ	福祉への関心を高め、市民相互の支え合いを基本とした、あたたかい地域づくりを目指す。	節、外出等の行事」等に参加した。 参加者 個人：延べ 807 人 団体：延べ 50 団体、延べ 464 人	ることができ、また、利用者は社会との結びつきを広げることができた。
ボランティア交流会	ボランティア同士の横のつながりを作り日々の活動の感想や意見を交換する場を設ける。	日々の活動の意見、感想を交換することで、ボランティア同士の交流を図り、活動の推進と地域交流を図った。 ・6月19日（水） 参加者：11人 ・2月25日（火） 参加者：16人	ボランティア同士の交流が図れ、活動の活性化につながった。
職場体験受入	利用者との交流から、中学生に地域福祉について関心を持ってもらう。	市立中学校の職場体験を受入れた。 調布市立第六中学校 2 年生 期間：9月2日～6日全5日 参加者：4人	中学生の地域福祉への関心を高め、その成長を支援することができた。

（４）家族介護者支援（家族会）

事業目的	実施内容	評価
家族会を通じて、お互いの介護情報共有、介護技術の提供を行い、家族が地域から孤立することを防ぎ、介護者の負担軽減を図る。また、家族介護者が抱えるニーズを把握する。	家族介護者の懇談会を実施し、お互いの介護情報の交換や共有、介護技術の助言を行った。 ・9月25日（水） 参加者：14人 （活動・施設紹介、おやつを試食、転倒予防体操の体験、懇談会） ・2月22日（土） 参加者：6人 （活動紹介、昼食を試食、懇談会）	介護する家族が地域から孤立することを防ぎ、介護負担を軽減することができた。家族介護者のニーズを把握できた。

9 低栄養予防事業

要介護状態を予防するための栄養状態の維持，増進を図ることを目的に，管理栄養士による栄養ケア計画に基づく料理教室形式の講座を実施しました。講座の参加者が料理を作るきっかけづくりと仲間づくりにつながりました。

また，講座終了後も低栄養予防の取組を継続できるように，前年度の受講生を対象にフォローアップ講座を開催しました。

(1) 低栄養予防事業（いきいきクッキング）

事業目的	実施内容	評価
要介護状態になることを予防するために，栄養状態の維持，向上を目指す。また，低栄養から生じる体力低下を予防する。	講義，調理実習及び前後の健康度の把握による効果測定を実施した。 ・前期コース 1回4時間 期間：6月6日（木）～9月19日（木）全8回 場所：たづくり調理室 参加者：5人 ・後期コース 1回4時間 期間：11月6日（水）～2月19日（水）全8回 場所：あくろす調理室 参加者：8人	参加者が，低栄養状態を改善，予防することについて学び，低栄養から生じる体力低下を予防することに取り組むことができた。

(2) いきいきクッキングフォローアップ講座

事業目的	実施内容	評価
プログラム終了後も地域で低栄養予防の取組が継続できるように支援する。	3月14日（金） 実施時間：2時間30分 会場：あくろす研修室 参加者：7人 内容：住民参加係職員（管理栄養士）による講義及び会食を兼ねた交流会	講座終了後も集まることで，低栄養予防について学んだことの振り返りができ，また仲間づくりの機会となった。

10 軽度生活援助事業

高齢者の自立した生活の継続と、認知症高齢者を介護する家族の負担を軽減するためヘルパーを派遣し、軽易な日常生活上の援助を行う調布市の独自施策事業を受託し、実施しました。

実施に際しては、生活支援事業では、公社で長年ホームヘルプサービスを提供してきた協力会員、見守り事業では認知症高齢者対応の実績がある公社の訪問介護員（ヘルパー）が援助を行いました。

また、このサービスを提供することで、利用者の状況を早い段階で把握できることから、地域包括支援センターや民間事業所などへ速やかに情報提供を行うことが可能になり、関係機関と連携を図りながら、利用者をスムーズに介護保険制度へつなぐことができました。

なお、見守り事業では、認知症高齢者に対して介護保険サービスでは適用されない見守り等に対応し、認知症の方とその家族が安心して在宅生活を続けられるよう支援しました。

（1）軽度生活援助事業（生活支援事業）

事業目的	実施内容	評価
ちょっとした支援を提供することにより充実した利用者の生活の安定を図る。	要介護認定で非該当となった高齢者に協力会員が日常生活上の援助を行った。 利用者数：延べ85人 サービス提供回数：273回 サービス提供時間数：429時間	利用者の自立を支援できた。また、早期に利用者の状況把握ができ、地域包括支援センターや介護事業所など関係機関と速やかな連携を図りながら、利用者をスムーズに介護保険制度へつなぐことができた。

（2）軽度生活援助事業（見守り事業）

事業目的	実施内容	評価
介護保険制度が適用されない見守り関連のサービスを提供すること	認知症の高齢者等に対し訪問介護係職員が、介護保険制度の適用外の見守り、散歩介助、話し相手	認知症の高齢者等とその家族が安心して在宅生活を続

<p>により, 利用者に安心して生活していただくとともに, 家族の介護負担の軽減を図り, 認知症高齢者等とその家族の在宅生活を支える。</p>	<p>などの援助を行った。 利用者数：延べ36人 サービス提供回数：117回 サービス提供時間：123時間</p>	<p>けることができました。</p>
---	--	--------------------

1 1 介護保険要介護認定調査事業

調布市の介護保険制度運営の円滑な遂行のために、介護保険法に基づく要介護認定調査を行いました。

(1) 介護保険要介護認定調査

事業目的	実施内容	評価
介護保険制度運営の円滑な遂行の一端を担う。	介護保険法による認定調査を行った。対象者の心身の状態、日常生活等について訪問調査を行った。 認定調査件数：68件	介護保険認定調査を行うことにより、適正かつ円滑な制度運営の遂行に資することができた。

12 障害者訪問介護事業

居宅介護，重度訪問介護の対象者が，地域で安心して自立した在宅生活を継続できるよう，サービスの提供に努めました。

平成25年度のサービス提供は約3,783時間でした。夏期に入院等で中止した利用者が数人あり，平成24年度に比べ約27時間減少しました。

(1) 障害者訪問介護事業

事業目的	実施内容	評価
障害者の自立支援を目指し，自らが望む暮らし方を実現できるよう必要なサービスを行う。	障害者の利用者に対して，身体介護，家事援助を行った。 利用者数：延べ381人 サービス提供回数：3,285回（平成24年度3,927回） サービス提供時間：3,783時間9分（平成24年度3,810時間15分）	ホームヘルプサービスを通じ，障害を持つ人が自立した生活を送るための支援ができた。

Ⅱ. 市民福祉及び地域福祉の増進のための普及啓発，

人材育成並びに調査研究開発事業

13 普及啓発事業

市民相互の支え合いによるあたたかい地域づくりを目指し、情報発信、地域活動への参加支援、住民同士の仲間づくりの場の提供等、様々な手法で福祉に関する普及啓発に努めました。

平成 25 年度は、重点事業の 1 つである「認知症の方を支える地域づくり及び家族介護者への支援の推進」の取組として、「NPO 法人町田市つながりの開(かい)」理事長の前田隆行氏を講師に、「認知症の理解を深める～認知症を患うということ～」をテーマにした福祉講演会を行いました。

また、地域包括ケアシステムの推進や今後の介護保険制度の改正を踏まえ、住民参加型事業の基盤を強化するため、地域団体との連携を図り、地域に向いての事業説明会や協力会員登録説明会を積極的に行い、協力会員の拡大に努めました。

(1) 福祉講演会

事業目的	実施内容	評価
保健、医療、福祉等に関する市民の社会的関心事について情報提供を行い、調布市の関係機関と連携し福祉のまちづくりを進める。	若年性認知症デイサービスや家族介護者支援を先駆的に実践している講師や認知症当事者の体験談を交え、認知症について、分かりやすい講演会を行った。 テーマ「認知症の理解を深める～認知症を患うということ～」 1月25日(土) 13時30分～15時 講師：前田隆行氏(NPO法人町田市つながりの開(かい)理事長)、認知症当事者2人 参加者：251人 会場：グリーンホール小ホール	認知症の人が、多くの人・社会・地域・企業とつながりながら、暮らしていくことについて理解を深める場を提供することができた。

	<p>8月8日（木）</p> <p>2月12日（水）</p> <p>2月19日（水）</p> <p>2月20日（木）</p> <p>2月21日（金）</p> <p>2月27日（木）</p> <p>2月28日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご近所支え合い隊 総会 <p>4月21日（日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青木病院相談室 <p>5月2日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菊野台ボランティアまつり <p>5月26日（日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンション国領自治会 <p>9月3日（火）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターつつじヶ丘地域ケア会議 <p>11月18日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター至誠しばさき地域ケア会議 <p>12月3日（火）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調布市東部エリアケアマネット <p>2月19日（水）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター権利擁護連絡会 <p>2月21日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵堂自治会 <p>3月16日（日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域デビュー歓迎会 <p>3月16日（日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調布市認知症サポーターフォローアップ講座 <p>3月17日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者会食（下石原地域福祉センター） 	
--	---	--

	<p>3月26日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵堂自治会サロン <p>3月28日(金)</p> <p>③その他公社事業PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調布市高齢者福祉推進協議会 <p>10月3日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調布市立第六中学校保護者へ協力会員登録説明会チラシを配布 10月 ・調布エフエム放送「福祉調べ隊」8月 「調布市ほっとインフォメーション」12月 ・J:COM「テレビ広報ちょうふ」12月 	
--	--	--

(4) 協力会員登録説明会

事業目的	実施内容	評価
<p>公社の行っている協力会員活動やボランティア活動を説明し、担い手を増やす。</p>	<p>住民参加型事業や有償在宅福祉サービスの広報を行うとともに、地域の支え合いサービスを担う市民(協力会員)を募集した。新規協力会員等の獲得に向け、登録説明会を実施した。</p> <p>新規登録協力会員：34人 参加者：延べ35人(全8回)</p> <p>①登録説明会(会場：調布ゆうあい福祉公社)</p> <p>6月14日(金) 7月8日(月) 11月14日(木) 3月13日(木)</p> <p>②出張登録説明会</p> <p>10月4日(金) 入間町地域福祉センター 1月16日(木) 西部地域福祉センター 1月28日(火) 調布ヶ丘地域福祉センター</p>	<p>定期的な実施により、地域の支え合いの重要性を理解する市民を増やし、会員登録につなげることができた。</p>

	2月18日(火) 染地地域福祉センター その他協力会員活動に関する問い合わせ に対し、説明を行った。	
--	--	--

(5) 生きがい介護予防講座

事業名	事業目的	実施内容	評価
男性のための料理講座	中高年の地域住民同士の交流による仲間づくりや、生きがいと社会参加の機会を提供することで、	男性のための料理講座 10月2日・9日・16日・23日・30日 水曜日全5回 (16日は台風のため中止) 対象：概ね55歳以上の男性 参加者：延べ34人	食生活と健康維持について学ぶとともに、仲間をつくる機会を提供できた。
フォークダンス講座	介護予防の視点を取り入れ、要介護状態になることをできる限り防ぐ。	フォークダンス講座 9月7日・14日・21日・28日 土曜日全4回 対象：概ね60歳以上の初心者 参加者：延べ44人	介護予防を意識し、体を動かすことで筋力低下を防ぐとともに、仲間をつくる機会を提供できた。
パソコン・デジカメ講座		パソコン・デジカメ講座 10月3日・10日・17日・24日 木曜日全4回 対象：概ね50歳以上 参加者：延べ47人	IT社会への順応、生きがい活動への支援と仲間をつくる機会を提供できた。

(6) 介護予防地域活動支援事業

事業目的	実施内容	評価
生きがい介護予防講座参加者が講座終了後も活動を継続することで、閉じこもりや孤立を防ぎ、健康で生きがいのある生活が続けられるよう支援する。	①男性のための料理講座修了者の自主グループ「だいこんの会」 講師等に対する支援 活動：月1回 ②フォークダンス講座修了者の自主グループゆうあいフォークダンス友の会「フレンズ」「すみれ」 講師等に対する支援 活動：月1回	講座参加者等の自発的な支え合い活動、居場所づくり、地域づくりを推進できた。

	<p>グループは活動 20 周年を迎え 11 月 29 日（金）に記念パーティを開催した。</p> <p>③パソコン・デジカメ講座修了者の自主グループ「結会いネット倶楽部」</p> <p>サポーター，会場確保等の支援</p> <p>活動：週 1 回</p>	
--	--	--

(7) 協力会員「サロン」

事業目的	実施内容	評価
協力会員の交流と地域づくりの促進を図る。	<p>公社敷地内の緑化活動として「グリーンクラブ」の活動を支援した。花壇の整備やゴーヤのグリーンカーテン設置を行った。</p> <p>活動：月 2 回</p>	協力会員同士の交流や地域活動についてサポートすることができた。

(8) 地域開放支援事業（7デイサービスぷちぽあん事業【再掲】）

事業目的	実施内容	評価
誰もが安心して健やかな生活を送るための地域づくりを目指し、住民参加型サービスの実施と認知症デイサービスの運営を支援するぷちぽあん運営協議会を中心に、地域住民に関われた施設づくりに努める。	<p>・ボランティアによる、ウエルカムドリンクやおやつの配膳準備，音楽療法，ドッグセラピー，庭の手入れなど</p> <p>活動者数：延べ 531 人</p> <p>・会食会（ぷちぽあんひだまりサロン）実施を支援した。</p> <p>実施回数：10 回</p> <p>参加者：延べ 138 人</p>	<p>地域住民がデイサービスへのサポートを行うことができた。</p> <p>また、住民自身が地域づくりの活動に、企画・実施・参加することができた。</p>
	<p>・地域交流会実施を支援した。</p> <p>第 1 回：絵手紙教室と茶話会 6 月 29 日（土） 参加者：17 人</p> <p>第 2 回：台風のため中止</p> <p>第 3 回：音楽療法体験 3 月 29 日（土） 参加者：21 人</p>	認知症の人が安心して生活を送るための地域づくりを支援することができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の無料貸出の実施 ①会食会：10回延べ138人(再掲) ②地域交流会：2回延べ38人(再掲) ③近隣の自治会：8回延べ46人 	住民の地域づくりを支援することができた。
--	--	----------------------

(9) 地域福祉交流育成 (8調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業【再掲】)

事業名	事業目的	実施内容	評価
ボランティアの受け入れ	利用者との交流により地域福祉への関心を高め、市民相互の支え合いを基本とした、あたたかい地域づくりを目指す。	個人・団体・学校・保育園がボランティアとして「生活」「季節、外出等の行事」等に参加した。 参加者 個人：延べ807人 団体：延べ50団体、延べ464人	地域住民は福祉への理解を深めることができ、また、利用者は社会との結びつきを広げることができた。
ボランティア交流会	ボランティア同士の横のつながりを作り日々の活動の感想や意見を交換する場を設ける。	日々の活動の意見、感想を交換することで、ボランティア同士の交流を図り、活動の推進と地域交流を図った。 ・6月19日(水) 参加者：11人 ・2月25日(火) 参加者：16人	ボランティア同士の交流が図れ、活動の活性化につながった。
職場体験受入	利用者との交流から、中学生に地域福祉について関心を持ってもらう。	市立中学校の職場体験を受入れた。 調布市立第六中学校2年生 期間：9月2日～6日全5日 参加者：4人	中学生の地域福祉への関心を高め、その成長を支援することができた。

14 人材育成事業

公社の理念である「市民相互の助け合い」と「自立支援のための質の高いサービスの提供を通じてあたたかい地域づくり」を推進するため、介護の担い手や協力会員、ボランティアの育成、専門資格の取得を目指す実習生の受け入れ、講座、研修会、学習会の開催等、様々な「学びの場」を提供し、介護や地域福祉の担い手となる人材育成を行いました。

この事業は、公社が行う住民参加型在宅福祉サービスを含めた事業と地域包括支援センターを備えた各種介護保険事業を総合的に学ぶことができる法人として、医療、福祉、教育職の育成実習機関の場となっています。

また、地域における講習会等に、福祉等の専門性を持つ公社の職員を講師として派遣しました。こうした事業により、質の高いケアを提供できる人材を育成することで、地域全体の福祉サービス向上に貢献しました。

平成25年度は、重点事業の取組として、多世代にわたる協力会員の確保が必要になることから、子育て中の若い世代に公社の活動を知っていただく事業として、親子向けの料理教室を開催しました。

(1) 介護職員初任者研修

事業目的	実施内容	評価
介護職員初任者研修として必要な知識及び技能を有する人材の養成を図り、地域に求められている質の高い介護職員を養成する。	通学形式にて講義と演習をプログラムとする講座を開催した。 期間：9月2日（月）～11月20日（水）全32日間 131時間 受講者：12人 修了者：11人 ※辞退者1人 プログラム：別表1参照	約5割の受講生が市内等の事業所にヘルパー・介護職員として就労し、地域の人材育成に寄与することができた。

別表1 介護職員初任者研修 プログラム

開講式 1(1) 多様なサービスの理解 1(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解 2(1) 人権と尊厳を支える介護 2(2) 自立に向けた介護 3(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携

- 3(2) 介護職の職業倫理
- 3(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント
- 3(4) 介護職の安全
- 4(1) 介護保険制度
- 4(2) 障害者総合支援制度及びその他制度
- 4(3) 医療との連携とリハビリテーション
- 5(1) 介護におけるコミュニケーション
- 5(2) 介護におけるチームのコミュニケーション
- 6(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常
- 6(2) 高齢者と健康①②
- 7(1) 認知症を取り巻く状況
- 7(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理
- 7(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常
- 7(4) 家族への支援
- 8(1) 障害の基礎的理解
- 8(2) 障害の医学的側面，生活障害，心理・行動の特徴，かかわり支援等の基礎的知識
- 8(3) 家族の心理，かかわり支援の理解
- 9(1) 介護の基本的な考え方①②
- 9(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解
- 9(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解
- 9(4) 生活と家事
- 9(5) 快適な居住環境整備と介護①②
- 9(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護①②
- 9(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
- 9(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護①②
- 9(9) 入浴，清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
- 9(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
- 9(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護①②
- 9(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護
- 9(13) 介護過程の基礎的理解
- 9(14) 総合生活支援技術演習①②
- 10(1) 振り返り
- 10(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修
筆記試験， 修了式

講師等

土屋典子氏(立正大学専任講師)

久松信夫氏(桜美林大学准教授)

小林肇氏(小林内科院長)

伊藤文子氏(調布訪問看護ステーション所長・看護師)

小笠原寿弘氏(調布市社会福祉事業団事務局長・社会福祉士)

石山淳一氏(精神科医)

森田祥子氏(管理栄養士)

松浦幸子氏(クッキングハウス代表・精神保健福祉士)

菅原光晴氏(作業療法士)

松浦みゆき氏(看護師)

以下 公社職員

社会福祉士(内園薫)

看護師(片寄あつみ, 山口瞳)

介護福祉士(渡邊範江, 中山典彦, 柏葉映子, 関塚元太, 中井裕代, 原田節子, 古野友美子, 渡邊ゆみ子, 伊勢真理子)

(2) ホームヘルパーフォローアップ研修

事業目的	実施内容	評価
介護人材の掘り起こしと就労支援や就労継続支援を行う。	ホームヘルパー2 級等の有資格者で未就労者を対象に,介護保険の現状などに関する講義と介護技術や調理技術の演習をプログラムとする研修を開催した。全 4 回, 個別受講可 参加者: 延べ 39 人 ・「介護保険におけるホームヘルプの考え方」 2月7日(金) 講義 2 時間 参加者: 16 人 講師: 安岡厚子氏(サポートハウス 年輪理事長) ・「調理技術」(調理の工夫・高齢者に適した食事形態と味付け等) 2月11日(火) 演習 4 時間	「未就労者の就労支援」を目的に実施しているが, 就労している介護職員に対してのスキルアップの役割も担うことができた。現在就労している人にとっては, 介護についての振り返りや新たな知識や技術の習得ができた。

	<p>参加者：9人 講師：公社協力会員（元公社訪問介護係職員） ・「介護技術（体位交換・排泄）」 2月17日（月）演習2時間 参加者：7人 講師：訪問介護係職員 ・「介護技術（移乗・移動）」 2月23日（日）演習2時間 参加者：7人 講師：訪問介護係職員</p>	
--	--	--

（3）ゆうあい福祉セミナー

事業目的	実施内容	評価
地域福祉の担い手となる人材の育成を促進する。	<p>「親子で作る！簡単おもてなし料理～楽しく始めよう親子で食育～」をテーマに親子料理教室を開催した。 12月1日（日） 講師：住民参加推進係職員（管理栄養士），協力会員 あくろす調理室 参加者：10人（親子5組）</p>	小学生とその親が楽しく食育を学ぶことができた。また、公社の食事サービスに携わっている管理栄養士や調理の協力会員が関わることで、若い世代に公社の食事サービス事業を知ってもらう機会となった。

（4）実習生受入れ

事業目的	実施内容	評価
社会福祉の実践を体験することにより、福祉への理解を深めることで、将来に有能、有用な人材の育成を図る。	<p>公社の各係において実習生を受け入れた。 実習生数：34人，延べ253日 詳細：別表2参照</p>	社会福祉援助技術や教員免許取得時の実習の場を提供し、福祉人材あるいは福祉への理解を深めた人材の育成ができた。

別表2 実習生受入

実習名	教育機関名	実習担当	人数	期間	延日数
社会福祉援助技術現場実習	東京学芸大学	地域包括支援センター係	1	23	23
	法政大学	地域包括支援センター係	1	23	23
		国領デイサービス係	1	23	23
	首都大学東京	地域包括支援センター係	1	15	15
	上智社会福祉専門学校	地域包括支援センター係	2	12	24
	桜美林大学	地域包括支援センター係	1	23	23
	調布市福祉健康部	事務局	5	4	20
地域看護学実習	杏林大学	地域包括支援センター係	2	2	2
老年看護学実習	東京慈恵会医科大学	国領デイサービス係	4	5	20
教育実習（東京都社会福祉協議会）	玉川大学	国領デイサービス係	7	5	35
	桐朋学園芸術短期大学		2	5	10
	相模女子大学		1	5	5
	東洋大学		3	5	15
	工学院大学		2	5	10
	津田塾大学		1	5	5

(5) 福祉専門職講師派遣

事業名	事業目的	実施内容	評価
介護研修への講師派遣	地域の福祉人材育成を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・9月29日（日） 「東京都障害者（児）移動支援従事者養成研修」 ・11月7日（木） 社会福祉法人調布市社会福祉事業団職員研修「訪問介護事業等について」 ・2月6日（木） 「重度訪問介護従事者養成研修」 	地域の介護従事者となる人材の育成と介護サービスに携わる専門職に対し、研修の機会を提供したことで、スキルアップにつながった。

(6) 公社内研修等の公開

事業目的	実施内容	評価
地域の福祉人材育成を支援する	<p>対象者：訪問介護係ほか公社職員，市内事業者の介護サービス従事者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月26日（火） 「自宅でできる安全なお薬の管理について」 講師：曾根原一郎氏（市内薬局薬剤師） 参加者 52 人（うち市内事業者 8 人） ・1月28日（火） 「在宅高齢者の結核と介護者の基本知識」 講師：宮石奉江氏（多摩府中保健所保健師） 参加者 50 人（うち市内事業者 9 人） 	地域福祉に関わる人材の育成に貢献できた。

(7) 協力会員研修 ホームヘルプサービス研修と食事サービス研修

事業名	事業目的	実施内容	評価
定例会	協力会員としての資質向上を図り，交流を深めるとともに，地域の一員としての役割を学ぶ。	<p>協力会員定例会と合わせ研修会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月18日（火） 「暮らしと個人情報」 講師：村井祐一氏（田園調布学園大学教授） 参加者：59 人（公開研修，登録ボランティア研修と合同） ・9月13日（金） 「感染予防について」 講師：訪問介護係職員 参加者：11 人 ・12月13日（金） 「ストレスマネジメント」 講師：松島直子氏（株式会社アンサー／保健師） 参加者：17 人（公開研修，登録ボランティア研修と合同） ・2月14日（金） 「接遇研修」 	協力会員が活動についての意見交換を行い，活動に関わることについての意義を学ぶ機会を提供できた。

		講師：三島理枝氏（人材育成コンサルタント） 参加者：12人（登録ボランティア研修と合同）	
基礎研修	有償在宅福祉サービスへの理解を深め、円滑に活動に入ることができるための基礎を学ぶ。	活動を行う際の心がけについてのガイダンス テーマ：「いつも心がけて守っていただくこと」 参加者：延べ34人8回実施 6月14日（金） 7月8日（月） 10月4日（金） 11月14日（木） 1月16日（木） 1月28日（火） 2月18日（火） 3月13日（木）	協力会員が、在宅福祉サービスの基礎を学ぶことで、スムーズなサービス提供を行うことができた。
ホームヘルプサービス協力会員研修	協力会員が自信を持ち、質の高いホームヘルプサービスの活動ができるよう高齢者や障害者への理解を深め、介護技術の向上を図る。	訪問介護係職員が掃除のコツなどを指導した。 1月20日（月） 「簡単♪キレイ☆お掃除のコツ」 参加者：6人	協力会員が自信を持って活動に入ることができ、利用者に対し、より質の高いホームヘルプサービスを行うことにつながった。
食事サービス新人研修と食事サービススキルアップ研修	協力会員として主体的に活動に取り組めるよう、必要な技術や知識を習得する。また、これまでの活動を振り返	①食事サービス新人研修 ・調理実地研修(8日間32時間) 参加者：8人 ・配達実地研修(4日間6時間) 参加者：9人 ②食事サービススキルアップ研修 ・食品衛生講習会	新規協力会員の不安を取り除き、円滑な参加を促すことができた。 また、活動している協力会員のモチベーション

	<p>り、今後の事業の展開に向けて検討するなど、主体的に活動する会員のモチベーションの向上、円滑な事業進行、サービスの質の向上を図る。</p>	<p>6月6日(木) 講師:多摩府中保健所職員 参加者:22人 ・食品衛生講習会ビデオ補講 7月7日(日) 参加者:19人 ・安全運転講習会 11月25日(月) 講師:あいおいニッセイ同和損保・株式会社インターリスク総研 参加者:29人(職員含む) ・安全運転講習ビデオ補講 参加者:15人 ・調理実習 2月21日(金) 2月22日(土) 講師:住民参加推進係職員(管理栄養士)・株式会社クリニコ 参加者:31人</p>	<p>が向上し、サービスの知識や技術の習得ができ、円滑な事業運営につながった。</p>
--	---	--	---

(8) 協力会員外部研修派遣

事業名	事業目的	実施内容	評価
<p>協力会員外部研修派遣</p>	<p>活動に必要な知識とスキルの向上を図り、より良いサービス提供につなげる。</p>	<p>・摂食・嚥下教室(調布病院主催) 7月17日(水) 参加者:1人 ・平成25年度健康づくり調理師等研修会(多摩府中保健所主催) 11月13日(水) 11月21日(木) 参加者:2人 ・第28回食事サービスを考えるつどい(東京食事サービス連</p>	<p>外部研修を活用することで、協力会員がより幅広く学ぶ機会を提供できた。</p>

		絡会主催) 1月19日(日) 参加者:2人 ・老人給食協力会ふきのとう見 学 1月28日(火) 参加者:3人	
--	--	--	--

15 調査研究開発事業

今年度も引き続き調布市内，市外等の関係機関と会議の場での情報交換や連携を図り，公社事業全体で質の高いケアが行えるよう努めました。

平成 24 年度には調布市内の高齢者等に配食を実施している他の事業者へ呼びかけ「調布市食事サービス連絡会準備会」を開催したところ，定例開催の要望があったため，平成 25 年度には試食会を実施し，大雪降雪時の配達状況など情報交換や安否確認の取組などを確認しました。

また「調布市認知症高齢者等を介護する家族支援マップ」を作成し，家族介護者や市民の方に活用していただきました。

(1) 調査研究開発事業

事業名	事業目的	実施内容	評価
関係機関との連携	調布市内，市外等の関係機関と情報交換と連携を図り，質の高いケアに結びつける。	下記の会議等に職員がメンバーとして参加した。 1 「調布市見守りネットワーク事業」関係団体ネットワーク会議 Bゾーン 2 福祉健康部食物アレルギー対策ワーキングチーム 3 介護支援専門員調布連絡協議会 4 介護保険認定審査会 5 調布市障害程度区分判定審査会 6 調布市障害者地域自立支援協議会 全体会，ワーキンググループ 7 調布市健康危機管理対策本部連絡会 8 調布市住宅マスタープラン改定検討委員会 9 介護保険サービス事業者調布連絡協議会 役員会，研修推進委員会 10 くすのき会評議員会 11 調布市高齢者救急業務協議会 12 調布消防署住宅防火等推進協議会 13 地域密着型サービス運営推進会議 小規模多機能ケアハウス絆 複合型サービスケアホーム希望	公社の各サービスから得られる情報を提供し，連携を図ることで，地域のケアを高める事ができた。

		<p>14こくりょうみんなの広場(国領小学校地区協議会)運営委員会</p> <p>15くすのき商店会</p> <p>16東京都社会福祉協議会 センター部会, 在宅福祉サービス部会</p> <p>17全国老人給食協力会</p>	
住民参加型 食事サービス事業の研究と開発	「食事サービス事業のあり方に関する報告書」を基に、今後の展開を図る。	<p>「食事サービス事業のあり方に関する報告書」(平成 25 年 3 月)に基づき新たな事業を展開した。</p> <p>①出張説明会(食事サービス事業説明, 試食対応等)【40p.再掲】</p> <p>②ゆうあい福祉セミナーで親子料理教室を実施し, 多世代交流の推進を図った。【49p.再掲】</p>	ケアマネジャー等からの利用者紹介の増加につながった。また親子料理教室を通して, 若い母親世代へ食育支援と住民参加型事業の紹介を行えた。
調布市食事サービス連絡会	配食事業者へ見守り体制の強化を呼びかけるとともに, 調布市見守りネットワークへの協力を呼びかけ, 調布市の高齢者見守り体制の強化を図る。	<p>平成 24 年度に準備会として開催した市内配食事業者との連絡会を, 定例会として実施した。</p> <p>各事業者の食事を試食するとともに, 高齢者への見守り体制や大雪時の配達対応などについて情報交換を行った。</p> <p>・第 1 回調布市食事サービス連絡会 3 月 18 日(火)</p> <p>参加者: 8 事業所 10 人</p>	調布市内の配食サービス事業者と高齢者等の見守り体制の充実を目指して, ネットワーク作りを行うことができた。今後, 毎年開催する。

<p>家族介護者支援に向けた取組</p>	<p>調布市内で認知症高齢者等を介護する家族に、必要な福祉・医療・保健の情報を届ける。</p>	<p>調布市における家族介護者の支援グループや地域密着型サービス機関での家族会実施状況等を調査し、市内にある介護者を支えるグループ、認知症対応の施設や相談窓口等の一覧をリーフレットにまとめた。 「調布市認知症高齢者等を介護する家族支援マップ」 6,000部発行（1月） 1,000部増刷（3月） 配布：福祉講演会ほか公社事業、公社窓口、調布市内公共施設及び市内関係機関窓口等 紹介記事掲載：読売新聞等</p>	<p>認知症高齢者等を介護する家族介護者が、市内の相談窓口につながりやすくなった。また介護者を支えるグループのネットワーク化に向けた一歩を踏み出すことができた。</p>
----------------------	---	---	--

Ⅲ. その他の報告事項

16 事業運営に関する事項

事業運営について、各係において職員間の連絡調整、介護保険改正への対応や見直しを行い、業務の効率化や事業の活性化と適切で安定した運営のための取組を行いました。

(1) 社内会議

会議名	目的	内容	構成員	評価
職員会議	公社が目指すべき方向性、重要な案件について全職員で共有し、円滑な事業運営を行う。	個別事業についての報告、連絡、適切な事業運営に関する協議を行った。 4つの職員会議をそれぞれ月1回開催した。	①国領デイサービス係 ②デイサービスぶちぼあん係③訪問介護係④その他各係の職員	職員が情報を共有し、適切な事業運営を行うことができた。
運営会議	公社運営に当たり必要な案件について協議を行い、意思形成を行う。	①利用者意向、地域、事業環境に関する情報の収集と分析②改善課題の設定と改善方法の協議③事業運営に関する協議 実施回数：月2回	局長、次長、副参事、課長、主幹、係長職	事業運営に当たり、実情を踏まえた意見交換、意思形成のための協議を行うことができた。
管理職会議	経営状況の把握と円滑な事業運営の確保のため意思決定を行う。	公社の運営状況を把握し、公社の方向性を決定する。 実施回数：週1回	局長、次長、副参事、課長、主幹	経営の基本方針が定まり、円滑に事業運営を進めることができた。
衛生委員会	公社職員の職場における安全と健康	職員の健康障害を防止する基本対策、職員の健康保持増	事務局長、産業医、衛生管理者、	「職場環境の整備」「感染症予防対策」等労

	康を確保するとともに、快適な労働環境の形成を促進する。	進の基本対策、労働災害の原因及び再発防止策で衛生に関することなどを協議した。 実施回数：月1回 1月の衛生委員会は訪問介護系の全体研修と合同で開催した。	次長，副参事，職員	務環境の改善を促進することができた。
--	-----------------------------	--	-----------	--------------------

(2) 苦情解決の状況

実施目的	実施内容	評価
利用者からの苦情を解決し再発防止を図る	苦情解決実施規程に基づき、第三者委員2人（弁護士・地域における福祉の有識者）、苦情解決責任者、苦情受付担当者を置き、苦情の解決にあたった。 苦情受付件数：26件 第三者委員への苦情申出はなかった。 苦情解決の状況を第三者委員に報告した。第三者委員は的確な解決がなされているかを確認し、公社にフィードバックし、その結果を職員が共有した。	苦情解決の状況をまとめ、職員が共有することによって、事業改善と再発防止策を進めることができた。

(3) その他

項目	実施目的	実施内容	評価
避難訓練	災害の発生を想定し、安全かつ迅速に避難できるように備える。	・調布市国領高齢者在宅サービスセンター（公社事務局含む）で避難訓練実施。年6回 上階のシルバーピア居住者に参加を呼び掛け実施した。1回は総合避難訓練として消防署立会いのもと、通報訓練・消火訓練を行った。 ・ぷちぽあんで避難訓練実施。 年2回	定期的に行うことで職員だけでなく、利用者、シルバーピア居住者の災害への意識や備えを高めることができた。

危機管理	多様な危機に際して被害の発生を未然に防ぐとともに、発生した場合には被害を最小限に留める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事例報告，事故報告を作成して情報共有をし，再発防止に努めた。 ・2月の大雪では，会社の食事サービスは，25年1月の大雪後に改定していたマニュアルを基に対応し実施することができたが，新たな課題が明らかになった。 	今後も多様な事態を想定し，マニュアル更新，訓練の実施を継続する。
介護サービス情報の公表	利用者が自ら介護サービス事業者を選択できるようにする。	<p>介護保険法に基づき，東京都が指定する情報公表センターへの報告及び調査機関による事実確認等調査を受けた。結果は，介護サービス情報公表システムで公表されている。</p> <p>介護事業所（①居宅支援係②訪問介護係③国領デイサービス係④デイサービスぷちぽあん係）</p>	利用者が介護サービス事業者を選択する情報提供ができた。

17 サービスの質の向上

公益財団法人に移行して2年目となった平成25年度は、公社理念に基づいた事業運営を推進していくため、公社全職員を対象に4回にわたり「理念・使命研修」を実施しました。

一連の研修を通じて、公社が推進している「循環型システム」^{※1}や「総合的・一体的なサービス提供」^{※2}について職員自身が理解を深めることができました。また、公社の歴史や地域を取り巻く社会環境、調布市からの期待や支援の内容を学ぶことで、公社が地域の中で、果たしてきた役割、果たすべき役割についての具体的なイメージを持つことができました。さらに、ワールドカフェ^{※3}方式で実施した第4回では、公社理念・使命の共有だけでなく、職員同士の相互理解が深まり、係間の連携の更なる強化の気運醸成など今後の事業展開における基礎固めをすることができました。

係や担当ごとの研修にも社内会議等を活用し積極的に取り組みました。常に情報共有、自己研鑽をすすめる、チームワークを磨きながらより良いサービスの提供に努めました。

評価会議では、サービス提供に当たり、作成したプランを評価し、必要時の調整を行い、利用者に対し適切にサービス提供が行えるよう取り組みました。

また、利用者のニーズに合った適切なサービスのあり方や、対応困難な利用者への支援のあり方などを検討するケースカンファレンスを定期的実施することで、各自の支援を振り返る課題抽出と改善の機会とし、相談援助に携わる職員の資質向上に努めました。

外部の研修やシンポジウム等に参加し、介護保険制度改正等の情報収集や職務に関する研鑽をしました。延べ234人が184回308日間の研修等に参加しました。また、外部研修の伝達研修に係会議等で行い、参加者以外との共有に努めました。

※1 総合的なサービス実践に基づき、幅広い地域ニーズを把握し、分析・研究を行なうことで、地域社会に必要な資源やサービスは何かを明らかにし、実際にサービスを創出するシステム

※2 インフォーマル（住民参加型）とフォーマル（介護保険制度等）の異なる二つの性質のサービスを一体的に提供していること

※3 テーマを決め、カフェのようなりラックスできる雰囲気の中でメンバーの組み合わせを変えながら、4～5人程度の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる会議の方法

(1) 公社内研修

事業名	事業目的	実施内容	評価
理念・使命 研修	公益法人職員であることの自覚を持って地域福祉の向上に取り組むことのできる人材を育成する	<p>事前研修「公社が推進してきた循環型システムについて」を8月までに係ごとで実施した。その後4回に渡り公社全職員120人余を対象に全体研修を行った。</p> <p>①9月12日(木) 「ゆうあい福祉公社の歴史を振り返る」シンポジウム 講師等：斉藤順子氏（元事務局長）・和田房子氏（公社理事，元事務局長）・土屋典子氏（立正大学専任講師，元職員）</p> <p>②10月25日（金） 「今，地域福祉を推進する上で公社に求められていること」講義とグループ討議 講師：小林良二氏（東洋大学教授）</p> <p>③11月13日（水） 「調布市がゆうあい福祉公社に期待すること」講義 講師：山本雅章氏（福祉健康部長）</p> <p>④2月4日（火） 「公社だからできたこと，できること」ワールドカフェ方式のグループ討議 欠席者は①～③についてはビデオ受講をした。</p>	職員一人ひとりがそれぞれの仕事の中で，その公益性とは何かを改めて問い直す機会となり，理念・使命を共有し，公社内で連携する意識が高まったことで今後の事業展開における基礎固めができた。
係会議（ミーティング（MT））と研	職員間の情報共有，必要な知識の習得及び技術	係会議等で係内の課題の検討協議，情報共有，外部研修の共有等を実施した。	課題や目標を再確認し，情報を共有する

修の実施	の向上を図り、円滑に業務を遂行する。	<p>また、全体の職員会議を活用し、「起案文書の書き方」「文書の書き方」「公社の会計」について5回の研修を行った</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター係 <p>係MT：月1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民参加推進係 <p>係MT：月2回</p> <p>食事サービス担当者会議，ホームヘルプ担当者会議：各月1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国領ディサービス係 <p>職員会議，各フロア会議，フロアキャップ会議，相談員会議：各月1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスぷちぼあん係 <p>職員会議：月1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅支援係 <p>係MT：月2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護係職員会議，班会議：月1回 <p>サービス提供者会議：週1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規入職者研修 <p>公社全体の研修後，係ごと，職種ごとに新人研修計画に沿って，段階を踏み習得の確認と評価を行いながら実務研修を進めた。</p>	ことで，業務の効率化，職員の資質向上につながった。
評価会議	ケアプランと各種介護計画が適切であるか，複数の専門職の目で評価し，改善を図ることによってサービスの質を向上する。	住民参加推進係ホームヘルプ担当，地域包括支援センター係，居宅支援係のMTでは，支援の難しい利用者や，新規利用者について相談職が発表し，互いに支援について助言をし，情報共有及び今後の方向性について確認を行った。	ケアプランの作成が，より適切になり，サービスの質が向上し，より良い支援につながった。

ケースカンファレンス	支援が難しい事例検討を通して問題の解決の方法を学ぶ。また、職員の資質、能力の向上を図る。	<p>担当事例について事例発表し、参加者でディスカッションを行う中で、自らの援助を振り返り、他者からの意見を聞いた。また、市内の外部関係機関にも積極的に参加を促した。平成26年1月と2月は外部のスーパーバイザーを招き実施した。月1回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加職員：相談職・看護職（住民参加推進係、地域包括支援センター係、居宅支援係等） ・外部参加者：延べ8人 ・スーパーバイザー：2人 <p>詳細：別表4参照</p>	<p>援助者が新たな視点を獲得することができ、スキルアップにつながった。</p> <p>外部関係者が参加することで、より広い視点での事例検討ができた。また、外部参加者の援助技術の向上について支援ができた。</p>
------------	--	---	--

別表3 係内研修

係	実施月	内容
地域包括支援センター係	2月	「権利擁護事例検討」研修
国領デイサービス係	6月	プライバシー
	9月	倫理規定
	11月	感染症
	12月	認知症
	1月	身体拘束・虐待
	2月	事故発生時対応
デイサービスぷちぼあん係	5月	非常災害時の対応
	6月	感染症発生の予防及び蔓延の防止
	7月	身体介護（入浴・清拭・排泄）
	10月	苦情・相談・事故マニュアル見直し・検討
	11月	感染症（インフルエンザ・ノロウイルス）
	12月	医療ニーズを見逃さないケアを学ぶ
	1月	非常災害時(火災・地震)

	2月	法令遵守	
	3月	個人情報保護・身体拘束	
居宅支援係	4月	認知症の周辺症状に対する精神科治療について 遺品整理の現場から学ぶ～最期まで孤立しないために～	
	6月	暮らしと個人情報（最期の時を自宅で迎えるときの 介護者に必要な心構えのケア）	
	7月	緩和ケアと在宅医療	
	10月	認知症の治療，苦情対応	
	11月	認知症患者と医療との連携，エンドオブライフ	
	12月	感染症予防	
	2月	高齢者虐待	
	2月	地域包括ケアシステム	
	3月	認知症連携パス	
	訪問介護係	4月	法令遵守，手引き（理念，心得，業務分担等）
		5月	緊急時，災害時の対応
6月		食中毒予防	
7月		生活援助（調理）	
8月		身体介護（排泄）	
9月		訪問介護記録について	
10月		コミュニケーション・スキル	
11月		服薬管理	
12月		精神障害者，困難ケースへの対応	
1月		感染症（結核）	
2月		認知症ケア ” ユマニチュード”	
3月		個人情報保護・ヒューマンエラー・自己評価	

別表4 ケースカンファレンス実施状況

実施日	内容（テーマ）
4月17日（水）	66歳で難病と統合失調症のある単身女性の支援について
6月19日（水）	世帯の支援計画を考える
7月17日（水）	身寄りのない認知症の人の支援について
8月21日（水）	地域包括支援センター職員としてケアマネ支援を行なう際に戸惑った事例

9月18日(水)	障害を持つキーパーソンと高齢利用者への支援について
10月16日(水)	複数の問題を抱えるケースの支援を考える
11月20日(水)	介護放棄があった高齢世帯の在宅継続希望
12月18日(水)	長くケアマネ不在の夫婦にケアマネとして関わるようになったケース
1月30日(木)	身寄りのない高齢姉妹の今後の支援について スーパーバイザー：石山淳一氏（精神科医）
2月19日(水)	利用料滞納（経済的搾取の疑い）のある利用者支援について スーパーバイザー：川手智子氏（高齢者支援室支援センター係長）
3月19日(水)	住民参加型ソーシャルワーカーとして今後の関わりについて

※5月はケースカンファレンスではなく、相談職向けに理念・使命研修を実施。
 ※ケースカンファレンスの後の全体会（住民参加推進係・居宅支援係・地域包括支援センターの相談職）で「ケースカンファレンスについて」、「相談援助職ならびに介護支援専門員の倫理規定」の研修を行った。

（2）外部研修の受講

目的	内容	評価
業務遂行に必要な知識・技術を得るとともに情報収集を行い、公社運営を円滑にする。	介護職の研修、各種相談職の研修、その他管理・運営に関する研修、パソコン研修、職層研修に延べ234人が184回308日間の研修等に参加した。 平成27年4月の介護保険改正を見据え、管理・運営に関する研修への参加が多くなった。また、職層研修については、東京都社会福祉協議会の福祉職員職務階層別研修を取り入れ、管理職・係長職など職責に応じた研修を受けられるようにした。 研修の成果を職員会議や係内会議等で伝達に努めた。	職員が、業務に必要な知識や技術の研修を受けることによって、よりよいサービスを提供することができた。

18 役員等・会議に関する事項

(1) 役員・評議員

ア 理事・監事

(平成26年3月31日現在)

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	長島 敏明	理事	山口 征子
副理事長	石原 敏子	理事	香川 草平
常務理事	風間 政二	監事	植松 充子
理事	畠山 敏子	監事	平田 美智子
理事	和田 房子		

イ 評議員

(平成26年3月31日現在)

氏名	氏名	氏名
西田 伸一	斉藤 光雄	柴崎 弓子
小川 時雄	新川 太計子	古屋 紀子
小西 健博	山本 雅章	

(2)会議の開催

ア 理事会

開催日	時 間	出席 人数	件 名	結 果
第 1 回 4月 24 日	午後 3 時 25 分～ 午後 4 時 30 分	6 人	専決処分について(平成 24 年度収支補正予算(第 3 号)) 平成 24 年度事業報告(案)について 平成 24 年度収支決算(案)について 評議員候補者の選任について 定時評議員会に提出する議案について	承認 可決 可決 可決
第 2 回 9月 26 日	午後 3 時 28 分～ 午後 4 時 35 分	6 人	専決処分について(平成 25 年度収支補正予算(第 1 号)) 平成 25 年度収支補正予算(第 2 号)(案)について 経営状況の報告について 基本財産の運用状況について	承認 可決 報告 報告
第 3 回 1月 23 日	午後 3 時 30 分～ 午後 4 時 40 分	5 人	専決処分について(給与規程の改正) 会計規程の改正(案)について 会計処理規程の改正(案)について 契約事務規程の制定(案)について 事案決裁規程の改正(案)について 職員就業規則の改正(案)について 嘱託職員等就業規則の改正(案)について ホームヘルパー就業規則の改正(案)について 職員再雇用に関する規程の改正(案)について 高齢者雇用規程の改正(案)について 資産運用規程の改正(案)について 理事会運営規程の制定(案)について 第 1 回臨時評議員会の招集について 第 1 回臨時評議員会に提出する議案について 経営状況の報告について 平成 26 年度事業計画(案)について 平成 26 年度収支予算(案)について	承認 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 報告 協議 協議
第 4 回 3月 20 日	午後 3 時 30 分～ 午後 4 時 32 分	5 人	専決処分について(平成 25 年度収支補正予算(第 3 号)) 衛生管理に関する規程の改正(案)について 処務規程の改正(案)について 印章規程の改正(案)について 高年齢者雇用規程の改正(案)について 平成 26 年度事業計画(案)について 平成 26 年度収支予算(案)について 第 1 回臨時評議員会に提出する議案(追加)について	承認 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決

イ 評議員会

開催日	時 間	出席 人数	件 名	結 果
定時評議員 会 5月9日	午後3時30分～ 午後4時44分	8人	評議員の選任について 平成24年度事業報告について 平成24年度収支決算について	可 決 可 決 可 決
第1回 臨時評議員 会 3月28日	午後3時29分～ 午後4時33分	8人	評議員会運営規程の制定(案)について 役員等の報酬等及び費用弁償に関する規程 の改正(案)について 平成26年度事業計画について 平成26年度収支予算について	可 決 可 決 報 告 報 告

19 事業報告書付属明細書について

該当なし